

聖使命会員取扱者となって、“すべての人々を幸福に導く聖使命会”に縁ある方々をおつなげしましょう！

聖使命よろこびの集い

〈取扱者研修会〉

日 時：令和8年 **1月20日** (火) 9:55～11:50

ご 指 導：三浦 晃太郎 教化部長 他

開催場所：生長の家千葉県教化部（大拝殿）で開催
Zoomによる配信も行います。

[ZoomID：851 7046 5395／パスコード：0531]

テキスト：『新版 菩薩は何を為すべきか』
『生長の家 創刊号（復刻版）』

「聖使命会員（聖使命菩薩）を拡大して、千葉教区の光明化運動を一步前進させよう」（聖使命会員の手引き）

参加対象：聖使命会員取扱者

奉 納 金：300円以上随意（昼食代込み）

〈主なプログラム〉

- ・事例発表「聖使命会員取扱者としての喜び」（相愛会・白鳩会）
- ・講話「聖使命会員取扱者を讀んで」……三浦晃太郎 教化部長
- ・聖使命会員の喜びの輪を広げよう（組織の具体的な取り組み内容について）
- ・決意発表（相愛会・白鳩会）

「聖使命会員となるよろこび」

宗教というものは、決して病気治しや個人の繁栄のために利用されるべきものではありません。ただ本当のおかげがあらわれるのは、まごころの信仰と報恩感謝の心があらわれたとき、その付属として附け加えられたものであって丁度人間の影が地上にうつっているような、そういう影に他ならないのであります。ですから信仰を手段として利用して、安あがりのおかげをつかみ病気などを治してもらおうとか、少しだけ寄附をして置いて大いに事業を発展させてもらおうとかと、さもしい事を考えることは全く間違っているのであります。私達の寄附や献金は、そのようなこととは全然ことなったところの純粹な菩薩行であり、一人でも多くの人々を救いたいという慈悲の発露でありますから、そこに自からその功德はあまねくゆきわたらざるところなく、一門家族の悪業すらも光に遭うた暗闇のように消滅してしまうのであります。（後略）

『新版 菩薩は何を為すべきか』谷口雅春先生著・谷口清超先生著 128頁より